

## ～静岡市立こども園で働く保育教諭3人のシゴト×働き方パネルトーク～

令和2年3月14日に予定していた「保育教諭限定！シゴト×働き方ガイダンス」の開催中止に伴い、当日登壇予定だった保育教諭3人によるパネルトークの内容を紙上公開します。保育教諭として働く中での様々なエピソードや得たこと・思いなどが満載です。ぜひご覧ください♪

エピソードを紹介してくれるのはこの3人！



原こども園 保育教諭

**中村 遥**

平成27年度採用  
(新卒(短大卒))



中田こども園 保育教諭

**石川 若菜**

平成30年度採用  
(新卒(短大卒))



清水こども園 保育教諭

**原田 優衣**

平成30年度採用  
(新卒(大卒)※Uターン)

### Q.いま働いているのは、どんなこども園？

**中村** 在園児数123人、職員数36人(※)の園で働いています。園庭が広く、子どもたちは毎日たっぷり外遊びを楽しんでいます。園の周りは農地が多く、子どもたちは散歩に出かけると、みかんやプラムなど様々な果物・野菜を見たり、途中で出くわすヤギさんに「ちっち(名前)」と話しかけたりして、喜んでいます。

**石川** 在園児数173人、職員数49人(※)の園で働いています。静岡駅に近く利便性が高いので、入園希望者が多くですね。園の周辺は以前に比べて住宅が増えたようで交通量が多いのですが、近くに公園もあって、自然と触れ合える場所が残っています。地域のボランティアの方が囲碁教室や絵本の読み聞かせをおこなってくださったり、近隣の老人会との交流もあつたりと、世代間交流の機会にも恵まれています。

**原田** 在園児数 88 人、職員数 30 人(※)の園で働いています。園の近くにエスパルスドリームプラザがあるので、そこまでお散歩して広いところで走ったり、清水港に客船を見に行ったり、外国の方とあいさつを交わす機会に恵まれることもあります。一緒に働いている同僚・先輩はとにかく元気で意欲的な方が多いので、「自分も頑張るぞー！」と気合いが入ります。

(※)令和2年3月現在

## Q.昨年度(令和元年度)はどんなクラスを担当していた？



**中村** 0歳児クラスの担任をしていました。子ども6人を、私を含めた保育者2人で見ていました。クラス運営のほかにも、地域の子育て支援の取組である「あそび・子育ておしゃべりサロン」の企画・運営を担当しました。



**石川** 担当したのは3歳児クラスで、初めてクラスリーダーを任されました。子ども 17 人のうち加配児が3人いて、加配担当の先生に障害について教えていただいたり、子どもの行動のあらわれなどの情報を共有したりしながら、協力して教育・保育をしました。また、園の食育のリーダーを任されたので、毎月「食育の集い」を行い、野菜を育てたり、花の栽培もしました。



**原田** 他の職員2人とともに2歳児クラスを担当して、初めてクラスリーダーを任されました。クラスリーダーとして、日々の保育だけでなく、おたよりや連絡ノートを通じて保護者に遊びや生活の様子を伝える仕事や、相談対応の経験を積むことができました。

## Q.静岡市の保育教諭になろうと思った理由は？

**中村** 進路や将来の夢について悩んでいた高校生の頃、自宅の片づけをしていたときに、自分の幼い頃の写真を見つけました。当時通っていた園が楽しかったこと、先生たちが大好きだったことを思い出して、高校の担任の先生にも背中を押してもらったこともあって、保育の仕事を目指すことを決めました。また、自分の生まれ育った静岡市で働きたいという気持ちが強く、学生の頃は、同じ静岡市の保育教諭を目指す友人と面接の練習をしたり、情報交換をしたりしていました。

**石川** 私は幼いときに引っ越しを経験しました。保育園を転園して、慣れない環境に戸惑っているときに、担任の先生が優しく接してくれたおかげで、自然に周りの子どもたちと打ち解けることができました。私が保育教諭を目指したのは、そのときの優しくて安心できる先生に憧れたことがきっかけです。大学では、公立園と私立園の両方で実習を経験しましたが、公立園は子どもの遊びが主体的であると感じて、私も主体性を大切にしたいと思ったので、公立園を選びました。

**原田** 子どもとかかわる仕事をしようと決めたのは高校3年生のときでした。大学では、小学校の教員になるか、他の仕事に就くか迷っていたので、ボランティアやアルバイトの機会を通じて小学校に行っていました。小学校低学年の子どもたちとかかわる中で、子どもたちが通っていた保育園はどんなところなのか興味を持ちました。そこで、保育園でもアルバイトを始めて、子どもたちのかわいらしさ、一緒に遊ぶ楽しさを感じ、成長をそばでみたいと思うようになったことから、大学3年のときに保育の仕事の本格的に目指そうと決めました。



## Q.わたしの“びっくり！”エピソード

**中村** つたい歩きが上手になってきたAちゃん(0歳)のエピソードです。毎日つたい歩きをしているうちに、園で1、2歩、一人歩きができるようになってきました。Aちゃんのお母さんに、「そろそろうちでも歩き出すかもしれませんね」と伝えました。すると、翌日にお母さんが、「一人歩きできました！1歩歩きました！」と教えてくれました。園で過ごす時間が長いからこそ、子どもたちの様々な“初めて”に立ち会うことができる、素敵な職業だと改めて感じた出来事でした。

**石川** 新任保育教諭として中田こども園に勤務することになり、最初は思っていた以上に子どもと職員の数が多いことに驚きました。また、実習生という立場ではなく、クラス担任として働き始めたことで、子どもたちの保育に責任感をいっそう持つようになったことはもちろんですが、自分が本当の母親になったかのように、子どもたちの表情や行動をととても愛おしく感じている毎日です。

**原田** 入園したばかりの4月には、「お母さんくる？」と泣いたり、バッグを持って自分で帰ろうとしていた子が、今では「先生おはよう！」と言って、お母さんにタッチして元気に「ばいばい！」と言って遊び出す姿を見て、子どもの成長スピードの速さを感じますね。タイヤを渡る遊具では、春頃は「先生絶対手を離しちゃダメ！」と不安げに遊んでいた子が、9月には「先生できるから見てて！先生の手持っていてあげようか？」と自信を持って遊ぶ姿に変わったのを見て、「いつの間にかできるようになってる！」と驚くこともあります。毎日身近でかかわっているからこそ、子どもたちの成長に驚きや発見が多くて、それが楽しいですね。



## Q.わたしの“がっかり”エピソード

**中村** 採用1年目に、パネルシアターをしていたときのことで。先輩と同じものを作って子どもたちの前で演じましたが、反応がイマイチ…。先輩に相談すると、「自分自身が楽しんでいないんじゃない？」と言われたんです。その言葉にドキッとしましたが、確かに、私自身が緊張していて楽しむ余裕がありませんでした。それからは、「子どもたちがどんな反応をするかな？」と、その場面を思い浮かべ自分なりの工夫を加えながら準備し、演じることで、子どもたちと一緒に楽しめるようになりました。

**石川** 私の公開保育を見た先輩の先生から、遊びのつながりについて、「子どもの『もう1回！』『もっとやりたい！』という声に寄り添うこと」というアドバイスをいただいたことが印象に残っています。日々の保育の中で、子どもたちの興味・関心を知るために、ちょっとしたつづやきや表情からその思いを読み取る力をつけていきたいですね。遊びの展開を考え、そのために必要な環境を整える力はまだまだ未熟なので、勉強の毎日です。

**原田** 思い浮かぶことが2つあります。1つ目は、見通しがもてなかったことで同じクラスの先生に迷惑をたくさんかけてしまったことです。参観会のエピソードですが、本番1週間前には、自分の中では「あれとこれをやったらほかに準備することはない」と思って見通しを立てていたつもりでした。しかし、準備していないものがあることが直前に発覚して、同じクラスの先生に迷惑をかけてしまいました。自分の見通しの甘さ、準備不足が浮き彫りになって悔しかったですし、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。そこから、自分の中で仕事に対する意識が少し変わりました。

2つ目は、子どもの発達に対する理解の不十分さです。大学で子どもの発達については一通り勉強してきたつもりでしたが、本に載っている発達の内容と、目の前の子どもの発達の程度には違いがありました。現場にいると様々な子どもたちに出会います。当然一人ひとりの発達のスピードは違います。本やマニュアルにすべての正解が載っているわけではないので、当初は一人ひとりに合った支援といっても、まず何をしてあげればいいのか戸惑った覚えがあります。「自分は勉強不足だな」とがっかりもしましたが、ただ何気なく毎日過ごすのではなく、先輩の保育の様子を見てやり方を真似したりして、「もっと勉強しなきゃ」と実感した瞬間でした。目の前の子どもの発達の程度をしっかりと把握して、その子のために何ができるのか考えることはとても難しく、手探りの毎日ですが、それができるようになりたいなと思います。



## Q.わたしの“ハッピー♪”エピソード

**中村** 採用2年目のときに担任をさせてもらった子どもたちを、4年目のときに今度は年長の担任として見させてもらうことになりました。特に、運動会や発表会に向けて友達と一緒にがんばる姿や、毎日過ごす中で子どもたち同士のつながりがより深くなっている様子に、成長を感じました。卒園の日、子どもたちに「今までいっぱい遊んでくれてありがとう！」と言ってもらえたことが、とても嬉しかったです。

**石川** 昨年度は、2歳児クラスから持ち上がりで同じ子どもたちの担任をしたので、自分で身のまわりのことをできるようになったり、言葉の発進が進んで会話できるようになったりと、子どもたちの成長を身近に感じられたことが嬉しかったです。子どもたちの何気ないエピソードや成長を、保育者や保護者との間で共有して喜び合えるところもこの仕事の魅力ですね。毎日の遊びや行事などを、子どもたちと一つひとつ作り上げていくところにも、面白さややりがいを感じています。

**原田** 朝、登園してきた子どもが「せんせい！おはよー！」と元気よく走ってきてくれること、保護者の方から「おうちでも先生の名前が出てくるんですよ。毎日会うことを楽しみに登園しています。」と言われることは、子どもたちに慕われているという実感を得られるので嬉しいですね。あとは、「〇〇ができた！」という瞬間に立ち会えることでしょうか。「せんせい」と呼べるようになったこと、あんなにできなかった身の回りのことを「一人でやりたい」と言って頑張っている姿などを見るのは、やっぱり嬉しいです。

## Q.先輩保育教諭のココがすごい！

**中村** 夏に、園庭での泡遊び、泥遊び、色水遊びを充実させようと、幼児クラスの職員同士で話をしたときのエピソードです。次の日から早速、色水用のペットボトル・石鹼・たらい・ごしごしタオルなどを用意して準備を進めていきました。ほかのクラスの先生方と一緒に準備をしたことで、子どもたちもクラス関係なく夢中で遊べたこと、子どもたちから「今日もたのしかった♪」という言葉が聞けたことが嬉しかったです。実際に一緒に準備をしてくださる優しくて頼もしい先輩方に、今でもたくさん助けられています。

**石川** ある日、別のクラスの担任をしている先輩の先生が、子どもたちが室内や戸外で自由に制作活動ができるように、テントを建てたり、机やマットを用意したりして、制作コーナーを設けていました。これによって、室内外の偏りなく遊びがつながる環境になり、異年齢の子どもにも遊びが広がっていく様子が見られました。私もこれを参考にして、自分のクラスにも制作ワゴンを作り、子どもたちが自由に制作できる環境を整えました。すると、子ども同士で折り紙を教え合う姿や、新聞紙やテープを上手に使って魔法使いのステッキなどの形を表現する様子が見られ、遊びを楽しむことができました。

**原田** 私が子どもの対応に困っていると、同じクラスの先生が「私やるよ」と役割を交代してくれることがあります。私の対応では子どもが納得しない、落ち着かない状態だったのに、先輩の先生が対応すると落ち着くことがよくあって、「やっぱり違うな、すごいな」と思うことがあります。そういうときは、上手いかなかった場面を自分なりに振り返ったり、原因を探ったりすることが大切だと思うので、疑問に思ったことは先輩に相談するように心がけています。

また、子どもが興味を持ったものから遊びを広げていくのがこの仕事のベースだと思うのですが、それがすごく上手な先生が園にいます。子どもがカエルに興味を持ったら、カエルのお面を作ったり、ハスの葉っぱを作ってプールで使ってみたり、体操したり、絵本から劇遊びにつなげたりと、引き出しの多さは真似できないなと感じます。「こんな保育ができれば自分も楽しいだろうな」と思うからこそ、その引き出しを真似しながら、自分自身の引き出しを増やしていきたいと思っています。



## Q.これから保育教諭を目指す人へ

**中村** 学生時代ほど、仲の良い友達に毎日会えて、同じ夢に向かって切磋琢磨できることはないと思います。大好きな友達と一緒に話して、遊んで、勉強して、思い出をたくさん作ってってください。社会人になってからも、ずっと味方でいてくれるはずですよ！

**石川** 昨年度、初めてクラスリーダーとして、運動会や生活発表会に向けて取り組みました。子どもたちのタイプや普段の様子から具体的な内容を決めて、どのように進めていくのか考えながら活動していく中で、子どもたちが目を輝かせながら生き活きとダンスをする姿に、とても感動しました。取り組む中で難しいと感じるところもたくさんありましたが、保育者同士が協力し合いながら本番を迎えることができました。静岡市には、このように協力し合える保育教諭の仲間がたくさんいます。ぜひ私たちと一緒に、楽しいこども園を作っていきましょう！

**原田** 「保育教諭になりたい！」という目標が決まっている人は、勉強をしながらも、色々な絵本を読んだり、働き始めてから使える手袋シアターやエプロンシアターなどの準備を進めておいたりするのもよいと思います。まだ具体的な目標が決まっていない人は、色々なところに行ってみたり、色々な人の話を聞いたりする経験が、きっと役立つと思います。あとは、学生のときだからこそその時間の過ごし方があると思うので、就職活動と思いつき楽しむことのメリハリをつけるのが一番だと思います！

